

## トピックス

### ボランティアによる湯原地区の除排雪作業を実施しました

昨年度、七ヶ宿町が5年ぶりの豪雪に見舞われた際には、宮城県職員によるボランティアグループをはじめ、地元の団体や個人の方々の協力で除排雪作業を行いました。

今年も農業農村整備部の方々をはじめ、43名の皆さんが湯原地区の除排雪作業を行い、作業後にはかんじき体験をしたり、いも煮を食べて地元の方々と交流を深めました。



▲ブルーシートを滑り台代わりに雪下ろし。



▲皆さんご協力ありがとうございました。

## トピックス

### 駅からハイキングが開催されました

2月4日、駅からハイキング「水守の郷七ヶ宿 かんじき履いて白銀の世界へGO」が干蒲地区で開催されました。

当日は天候にも恵まれ、24名の参加者は干蒲公民館から鏡清水までの足跡一つない雪原を、かんじきを履いて歩きました。

参加者の中には首都圏から来られた方もおり、「雪原の中を歩いたことはあったがこんなに真っ白でふかふかな雪は初めてだ、でも歩くの大変だよ・・・」と話していました。

また、干蒲公民館では干蒲地区の方々のご協力で漬物等を振る舞っていただき、交流とおもてなしをしていただきました。



▲ガイドの様子



▲地元の方々との交流会の様子

### 地域づくり委員会で雪像作りが行われました

2月4日、瀬見原・矢立地区地域づくり委員会の雪像づくりが行われました。これは瀬見原・矢立地区のコミュニティ事業と子育て支援事業を兼ねた取り組みで、3回目となる今年も関保育所の運動場にアンパンマン号を模った滑り台を作成しました。

また同日、関上地区・関下地区地域づくり委員会は、今年も合同で国道113号線沿いに雪灯籠をつくりました。雪灯籠に灯された火は雪景色に溶け、優雅な光で辺りを包みこみました。



▲瀬見原・矢立地区のアンパンマン号



▲関上地区の雪灯籠

本格的に米作りを始めて2年が経ちました。始めたきっかけとしては、冬にスキーが出来る、肉体労働なら出来るかな？そんな感じでスタートしました。

1年目の春は言われるがままに作業をして、時間になったら終わり。そんな毎日でした。しかし、自分が種まきから田植えと手間暇かけて育つ苗を見ているうちに、その世界にどんどんなまっています。まだ1年目は自分ですら管理する田がなかったのです。が、徐々に、仕事が終わってからの一通り皆の田を見て歩いて、日々の変化を観察するようになっていきました。

そしてもう一つが、米食味コンクールとの出逢いでした。米の世界にも日本一を決める大会があり、源流米ネットワークの方々も参加されて

## 「米」



滑津  
八島 徹也さん

いて、前年度に金賞を受賞したと聞き、ますます興味を持ちました。「米なんてどれも一緒でしょ？」という考えから、「いつか日本一の米をつくりたい！」そんな思いがわいてきました。この2年で覚えた事が多々あります。しかし、米作りは毎年1年生と教わりました。毎年、毎日が勉強だと感じました。これから稲と共に日々成長していきたいと思っています。

最後に、私をこの世界に導いてくれた七ヶ宿町役場の方々、指導してくださっているライスファーム七ヶ宿の方々、見守ってくださる町の方々に感謝します。皆さん美味しいご飯を食べて健康な体を保ちましょう。

次回は、八島徹也さんの学生時代の同級生、市川佳枝さんにリレーされます。